

# 求来里平島遺跡 1次

—県営日田地区広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書(6)—

## A区の調査

2019年

日田市教育委員会



調査地周辺空中写真（北から）



## 序 文

日田市は九州北部のほぼ中央に位置し、東西約 24km、南北約 49km の市域を有する、大分県西部の中心都市です。市北部に位置する日田盆地は古来より交通の要衝であり、江戸時代には幕府の直轄地として九州の政治経済の中心となるなど、重要な地域がありました。

本遺跡のある求来里地区は日田盆地の東部に位置し、求来里川によって開けた谷部に集落が点在しています。この地区では、平成 5 年以降、道路建設工事や圃場整備工事、河川改修工事に伴い、多くの調査が行われてきましたが、本書で報告する求来里平島遺跡の発掘調査は、その中でも最初の調査となるものでした。

調査では縄文時代後期の土坑や古墳時代中期の集落が確認されました。特に古墳時代中期の集落は、日田市だけでなく筑後川中流域における、この時期の集落の動向を考える上で、新たな知見を得るものとなりました。

こうした発掘調査の成果をまとめた本書が今後、文化財の保護や普及啓発、地元の歴史を知る手掛かりとして、また学術研究等にご活用いただければ幸いです。

最後に、調査に対するご理解やさまざまご協力を賜りました関係者の皆様に、また、作業にご尽力いただきました作業員の皆様に、心より厚くお礼を申し上げます。

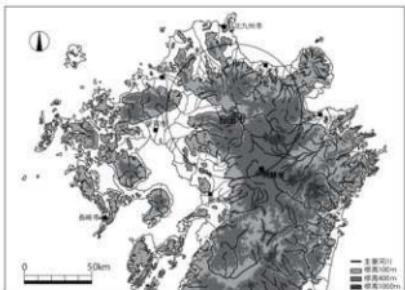
平成 31 年 3 月

日田市教育委員会

教育長 三苦 真治郎

## 例 言

1. 本書は農道建設に先立ち、平成5年度に日田市教育委員会が実施した求来里平島遺跡A区の発掘調査報告書である。
2. 調査は、大分県日田地方振興局（現、大分県西部振興局）の委託業務として日田市が受託し、日田市教育委員会が事業主体となり実施した。
3. 調査にあたっては、大分県日田地方振興局耕地課（現、大分県西部振興局農林基盤部）、日田市経済部農政課（現、日田市農林振興部農業振興課）、また地元の方々にさまざまご協力をいただいた。記して感謝申し上げます。
4. 発掘調査現場での遺構実測・写真撮影は行時（志）・森山が行った。
5. 本書に掲載した空中写真は、有限会社スカイサーベイに委託して撮影を実施し、その成果品を使用した。
6. 本書に掲載した図面・写真的うち、遺物実測図は一部を担当者が行ったほかは雅企画有限会社、遺物写真是雅企画有限会社、遺構図は雅企画有限会社・株式会社九州文化財総合研究所に委託した成果品を使用した。
7. 掛図中の方位はすべて磁北を示す。
8. 写真図版の遺物に付した数字番号は、掛図番号に対応する。
9. 出土遺物および図面・写真類は、日田市埋蔵文化財センターにて保管している。
10. 本書の執筆・編集は、若杉が行った。



日田市の位置



大分県の行政地区

## 本文目次

I	調査の経過	1
(1)	調査に至る経緯	1
(2)	発掘作業の経過	1
(3)	整理等作業の経過	3
(4)	調査組織	3
II	遺跡の位置と環境	4
III	調査の内容	6
(1)	調査の概要	6
(2)	遺構と遺物	6
IV	総括	14

## 挿図目次

第1図	広域営農団地農道路線図 (1/40,000)	1
第2図	調査地周辺地形図及び調査区配置図 (1/3,500)	2
第3図	求来里川流域の遺跡分布図 (1/20,000)	5
第4図	遺構配置図 (1/200)	6
第5図	1～4号a竪穴建物実測図 (1/80・1/40)	7
第6図	4号b竪穴建物実測図 (1/80・1/40)	8
第7図	1～4号a・b竪穴建物出土遺物実測図 (1/4)	9
第8図	5号竪穴建物実測図 (1/80・1/40)	10
第9図	5号竪穴建物出土遺物実測図 (1/4)	10
第10図	6号竪穴建物実測図 (1/80)	10
第11図	6号竪穴建物出土遺物実測図 (1/1・1/2・1/4)	11
第12図	1号土坑実測図及び出土遺物実測図 (1/40・1/4・1/2・2/3)	12
第13図	2・3号土坑実測図 (1/40)	13
第14図	その他の出土遺物実測図 (1) (1/4)	13
第15図	その他の出土遺物実測図 (2) (1/2・1/1)	13
第16図	その他の出土遺物実測図 (3) (1/2)	13

## 表目次

第1表 求来里川流域における古墳時代集落変遷表	14
第2表 出土土器観察表	15
第3表 出土石器・石製品・土製品観察表	15

## 写真図版目次

卷頭図版	調査地周辺空中写真（南から）
写真図版1上	調査地周辺空中写真（南西から）
	下 調査区垂直写真（上が南西）
写真図版2①	1・2号竪穴建物、1号土坑発掘状況（南西から）
②	1号竪穴建物発掘状況（北西から）
③	1・2号竪穴建物発掘状況（上が南西）
④	3号竪穴建物発掘状況（南西から）
⑤	4号a・b竪穴建物発掘状況（上が南西）
⑥	4号a竪穴建物発掘状況（南から）
⑦	4号a竪穴建物カマド発掘状況（南から）
⑧	4号b竪穴建物カマド土層堆積状況
写真図版3①	5・6号竪穴建物発掘状況1（南西から）
②	5・6号竪穴建物発掘状況2（北東から）
③	6号竪穴建物遺物出土状況1
④	6号竪穴建物遺物出土状況2
⑤	1号土坑遺物出土状況
⑥	2号土坑発掘状況（南から）
⑦	2号土坑完掘状況（北から）
⑧	3号土坑発掘状況（北西から）
写真図版4・5	出土遺物

## 本文写真目次

写真1 作業風景	3
写真2 調査に従事されたみなさん	3

## I 調査の経過

### (1) 調査に至る経緯

県営広域營農団地農道は、熊本県小国町を起点に日田市天瀬町及び同大山村（当時：日田郡天瀬町及び大山村）を経由し、日田市西有田を結ぶ県内総延長約28kmの地域農業振興対策事業として、昭和56年に事業計画決定され、翌年より工事が着手された。このうち、旧日田市内のルートについては、旧市内東部をほぼ南北に縱断する形で南の県道岩戸五馬日田線から北は市道葛原線までの延長約8kmの路線が計画された。

この農道建設に先立つ平成4年5月には、大分県日田地方振興局（現・大分県西部振興局、以下、県振興局）の局長名で、路線計画予定地のうち求来里地区と日高地区的埋蔵文化財の所在の有無についての照会文書が提出された。これを受けて、県振興局と市教育委員会の両者による埋蔵文化財の取り扱いについての協議を行い、求来里地区については、市教育委員会が事前の試掘調査を行うこととなった。

試掘調査は平成4年10月26日から11月16日の間、実施した。調査では求来里川两岸の路線予定地内で7か所のトレチを設定した。その結果、竖穴建物やピットを検出、土器や石器などの遺物が出土し、遺跡の存在が明らかとなった。これにより、遺跡の取り扱いについて市教育委員会は県振興局と協議を行ったものの、路線の変更を行うなど、遺跡を保護することが不可能と判断し、翌平成5年度に記録保存のための発掘調査を行うこととなった。

その後、調査经费や期間等について協議を行い、平成5年5月10日に日田市と県振興局との間で発掘調査及び整理等作業に関する契約を締結した（履行期間：平成5年5月10日～平成6年2月28日）。なお、調査は求来里川右岸の調査区をA区、左岸の調査区をB・C区として実施した。なお、B・C区の調査結果については報告済である<sup>10</sup>。

註(1)

土居和幸『求来里平島遺跡』日田市埋蔵文化財報告書第38集 日田市教育委員会 2003

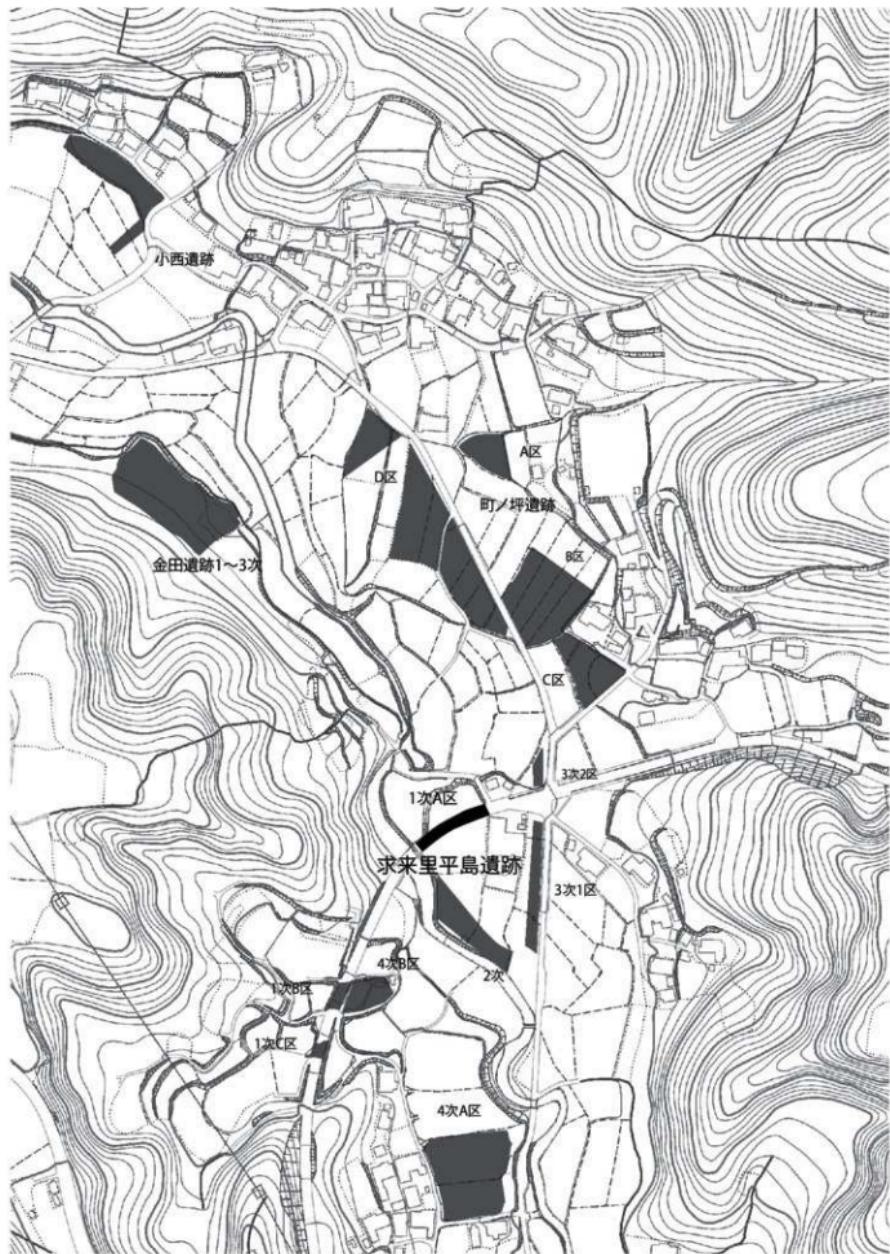
### (2) 発掘作業の経過

発掘作業は平成5年5月12日に着手した。以下、その経過を記す。

- 5月12日 重機搬入、表土除去開始
- 5月19日 作業員による遺構検出開始（～21日）
- 6月14日 遺構検出、建物7軒確認
- 6月17日 遺構掘り下げ開始、随時写真撮影・実測実施
- 7月15日 全体清掃



第1図 広域營農団地農道路線図 (1/40,000)



第2図 調査地周辺地形図及び調査区配置図（1/3,500）

- 7月16日 全体清掃、空中写真撮影実施  
7月19日 遺構掘り下げ、遺構実測完了  
7月21日 器材整理、撤収、調査終了



写真1 作業風景



写真2 作業に従事されたみなさん

### (3) 整理等作業の経過

整理等作業は、発掘調査終了後の平成5年8月2日に着手し、同年10月19日に終了した。

その後、諸般の事情により、当該事業が完了する平成14年度までに報告書を刊行することができなかった。そのため、平成29・30年度に市の単独事業である埋蔵文化財発掘調査報告書作成事業により予算化し、報告書の作成、印刷を実施した。なお、各年度の作業内容及び委託業務の発注先については、以下のとおりである。

平成29年度 遺物実測・写真撮影及び遺構製図（雅企画㈱、㈱九州文化財総合研究所）

平成30年度 報告書作成、印刷

### (4) 調査組織

発掘作業・整理等作業及び報告書作成の体制は以下のとおりである。（職名は当時のまま）

発掘作業・整理等作業（遺物整理まで）（平成5年度）

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 加藤正俊（日田市教育委員会教育長）

調査統括 原田良伸（日田市立博物館長）

調査事務 阿部正義（日田市立博物館次長）

土居和幸（日田市立博物館学芸員） 森山敬一郎（日田市立博物館嘱託）

羽野恭子（日田市立博物館臨時職員）

調査担当 行時志郎（日田立博物館学芸員）

発掘作業員 秋ヤエ子 足立アキノ 足立貞子 足立絹子 穴井キミ子 穴井清香 謙山三代子

井上ノブエ 河津稔子 北澤幾子 五島英司 酒井光敏 佐藤カスミ 中野カズエ

中野ヨシ子 毛利十四男 渡辺義夫 渡辺芳五郎

整理作業員 石松恭子 小野敦 財津朱美 田中静香 境川暢子

整理等作業（実測・製図業務等）及び報告書作成・印刷（平成29・30年度）

調査主体 日田市教育委員会

調査責任者 三吉眞治郎（日田市教育委員会教育長）

調査統括 梶原康弘（日田市教育庁文化財保護課長）

調査事務 古賀信一（日田市教育庁文化財保護課主幹（総括）埋蔵文化財係担当／平成29年度）

安岡佳克（同主幹（総括）埋蔵文化財係担当／平成30年度）

今田秀樹（同主査／平成30年度） 行時桂子（同主査）

渡邉隆行（同主査／平成29年度） 上原翔平（同主任） 長祐一郎（同主査）

整理・報告書担当 若杉竜太（日田市教育庁文化財保護課主査）

整理作業員 高瀬真奈美（平成29年度） 立川幸子 用松操 吉田里美

## II 遺跡の位置と環境（第2図）

求来里平島遺跡の所在する求来里地区は盆地の東部に位置し、天瀬町馬原を源とする求来里川により形成された沖積地が狭い谷状の地形を呈している。求来里川は大きく蛇行を繰り返しながら、北西方向に流れ、遺跡の北约2kmの地点で有田川と合流する。

求来里地区及び求来里川流域では、今回報告する道路建設に伴って行われた発掘調査の他にも、ほ場整備や河川改修などによる発掘調査が行われている。ここでは、それらの遺跡を中心に求来里川流域の遺跡を概観していく。

求来里平島遺跡の北側にある町ノ坪遺跡(4)では、旧石器時代から近世の各時代の遺物や遺構が確認されている。さらにその北西側約400mの台地裾には、旧石器時代の遺物や弥生時代中期から終末期にかけての集落が確認された小西遺跡(2)がある。また、小西遺跡から求来里川を挟んで南に金田遺跡(3)が所在する。金田遺跡では弥生時代中期後半から古墳時代後期の集落が確認され、古墳時代中期の集落では朝倉産の初期須恵器や朝鮮半島系土器が出土しており、床柱からカマド導入期の集落変遷が窺える。求来里平島遺跡の南側には弥生時代・古墳時代の包蔵地である着来遺跡(5)がある。着来遺跡の東側、求来里川が形成する谷の最奥部には縄文時代前期を中心とした包含層、古墳時代後期から終末期の集落や中世の墓地が確認された名里遺跡(6)が存在する。

一方、谷の北側には町野原台地が広がり、台地一帯は旧石器時代・縄文時代・古墳時代の包蔵地である町野原遺跡(7)が存在する。また、台地の南東側に円墳の亀ノ甲古墳(8)、さらに台地から西側に派生し、小西遺跡背後にあたる丘陵上には、横穴式石室を主体とし、3基の円墳からなるガニタ古墳群(10~12)がある。

また、谷南側の元宮原台地上には弥生時代後期の襄棺墓・石棺墓や古墳時代後期の石蓋土坑墓、中世の塚と笠塔婆などが見つかった元宮遺跡(13)が存在する。弥生時代～古墳時代にかけての墓地は、求来里川流域に展開する同時期の集落との関係を想起させる。

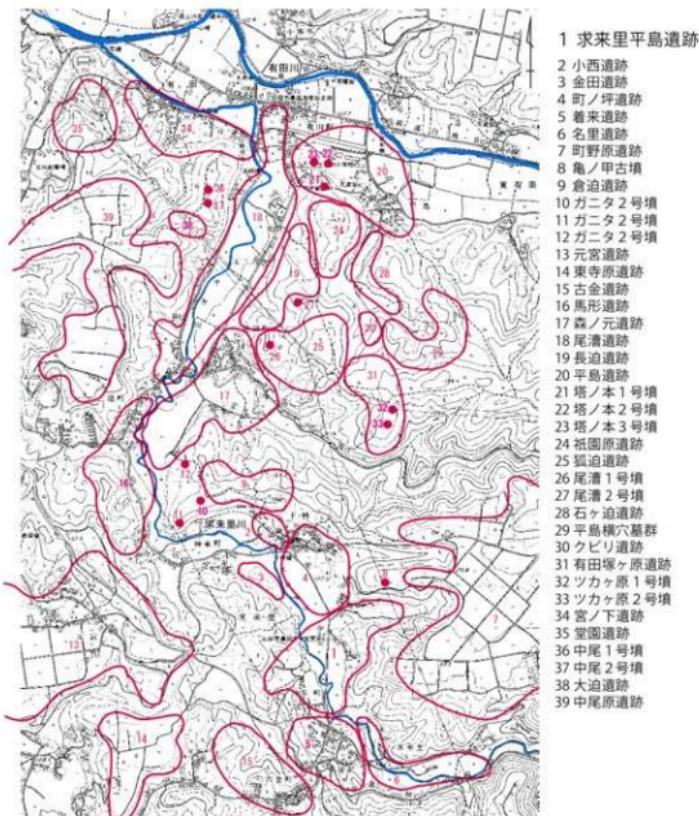
さらに、求来里地区から求来里川を下流に下った有田地区でも、沖積地及び周辺の丘陵上に多くの遺跡がみられる。小西遺跡の西約600mの丘陵上には古墳時代の集落や古代の土坑墓が見つかった馬形遺跡(16)がある。さらに下流の沖積地及び微高地上には、縄文時代晩期の埋甕や平安時代の竪穴遺構が確認された森ノ元遺跡(17)や弥生時代の墓地や古墳時代の集落、300枚を超える六道錢が埋納された土坑墓が確認された尾漕遺跡(18)が存在する。

また、求来里川右岸の台地上には、弥生時代から古墳時代にかけての集落や近世墓群が見つかった祇園原遺跡(24)、古墳時代から古代を中心とする集落が確認された長迫遺跡(19)、古墳時代後期の横穴式石室を主体とする塔ノ本1号墳(21)などが存在する。一方、左岸の台地上には古墳時代の土坑墓・石蓋土坑墓・石棺墓などが確認された大迫遺跡(38)や3基の円墳からなる中尾古墳群(36・37)が存在する。

### （参考文献）

- 若杉竜太編『平成15年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2004  
渡道隆行編『平成16年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2005  
今田秀樹編『平成17年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2007  
矢羽田章宏編『平成18年度日田市埋蔵文化財年報』日田市教育委員会 2008  
松下桂子編『牧原遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第12集 日田市教育委員会 1997  
村上久・友岡信彦・染矢和徳編『日田条里遺跡群・佐寺横穴墓群・大迫遺跡・白岩遺跡・下綾垣遺跡』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(6) 大分県教育委員会 1997  
行時志郎編『森ノ元遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第13集 日田市教育委員会 1998  
土居和幸・行時志郎・永田裕久編『馬形遺跡』日田市埋蔵文化財調査報告書第16集 日田市教育委員会 1998  
友岡信彦・松本康弘『佐寺原遺跡・尾漕遺跡群・有田塚ヶ原古墳群』九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書(9) 大分県教育委員会 1998  
村上久・原田昭一編『尾漕遺跡』大分県文化財調査報告書第112輯 大分県教育委員会 2000

- 若杉竜太編「平島遺跡D地点 塔ノ本古墳 紙園原遺跡2次 長迫遺跡C地点 長迫遺跡D地点 尾瀬遺跡6次」日田市埋蔵文化財調査報告書第28集 日田市教育委員会 2001
- 行時志郎編「尾瀬遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第30集 日田市教育委員会 2001
- 土居和幸「求来里平島遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第38集 日田市教育委員会 2003
- 行時桂子「尾瀬2号墳」日田市埋蔵文化財調査報告書第69集 日田市教育委員会 2006
- 行時桂子編「求来里平島遺跡II」日田市埋蔵文化財調査報告書第77集 日田市教育委員会 2007
- 行時桂子編「紙園原遺跡II」日田市埋蔵文化財調査報告書第81集 日田市教育委員会 2007
- 行時桂子編「金田遺跡3次調査区」日田市埋蔵文化財調査報告書第87集 日田市教育委員会 2008
- 田中裕介・原田昭一・松本康弘編「求来里平島遺跡D区、求来里名里遺跡A区1次調査区、金田遺跡1次調査区、金田遺跡3次調査区」大分県教育庁埋蔵文化財センター調査報告書第31集 大分県教育庁埋蔵文化財センター 2008
- 渡邊隆行編「求来里の遺跡I 町ノ坪遺跡B区」日田市埋蔵文化財調査報告書第88集 2009
- 若杉竜太「求来里の遺跡II 金田遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第89集 2009
- 若杉竜太「求来里の遺跡III 小西遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第91集 2010
- 若杉竜太編「求来里の遺跡」日田市教育委員会 2010
- 若杉竜太編「求来里の遺跡IV 求来里平島遺跡」日田市埋蔵文化財調査報告書第102集 2012
- 若杉竜太「求来里の遺跡V 町ノ坪遺跡A・C区」日田市埋蔵文化財調査報告書第132集 2018



第3図 求来里川流域の遺跡分布図 (1/20,000)

### III 調査の内容

#### (1) 調査の概要 (第4図 図版1)

調査地は、求来里川右岸の標高 126 ~ 129 m の沖積地に位置する。

調査区は道路形状に合わせた、長さ約 50 m、幅 7 ~ 8 m の調査区 (調査面積 326 m<sup>2</sup>) で、現地形は北西から南東側にかけて緩やかに傾斜していた。遺構は調査区中央付近から南西側にかけて、7軒の堅穴建物、3基の土坑が確認された。

なお、北東側では遺構はほとんど確認されていない。これは、旧地形が削平を受けている可能性が高いためと考えられる。

#### (2) 遺構と遺物

前述したように、今回の調査では堅穴建物 7 軒、土坑 3 基が確認された。以下、各遺構の内容及び出土遺物の時期等について述べていく<sup>⑨</sup>。

##### 1. 堅穴建物

###### 1号堅穴建物 (第5図 図版2)

調査区の南西側の中央付近で確認され、2号堅穴建物・1号土坑を切る。西側は調査区外へかかる。

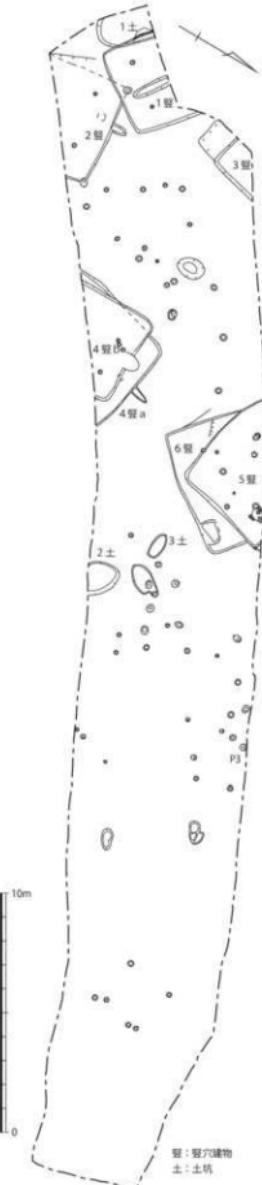
平面形は方形を呈し、調査区内で確認された規模は、北東 - 南西軸約 6.0 m、南東壁約 4.5 m (+α)、検出面からの深さは約 10 cm を測る。床面で確認された P1 と P2 を主柱穴と判断した。なお、P1・P2 の位置や建物の形状・規模から主柱穴は 4 本柱であったと考えられ、調査区外に存在する可能性がある。主柱穴の床面からの深さは P1 が約 15 cm、P2 が約 25 cm を測る。

遺物は土師器櫃と思われる口縁端部が出土している (第7図 1)。破片のため、時期比定は難しいが、後述する 2号堅穴建物を切っていることから、5世紀末以降としておきたい。

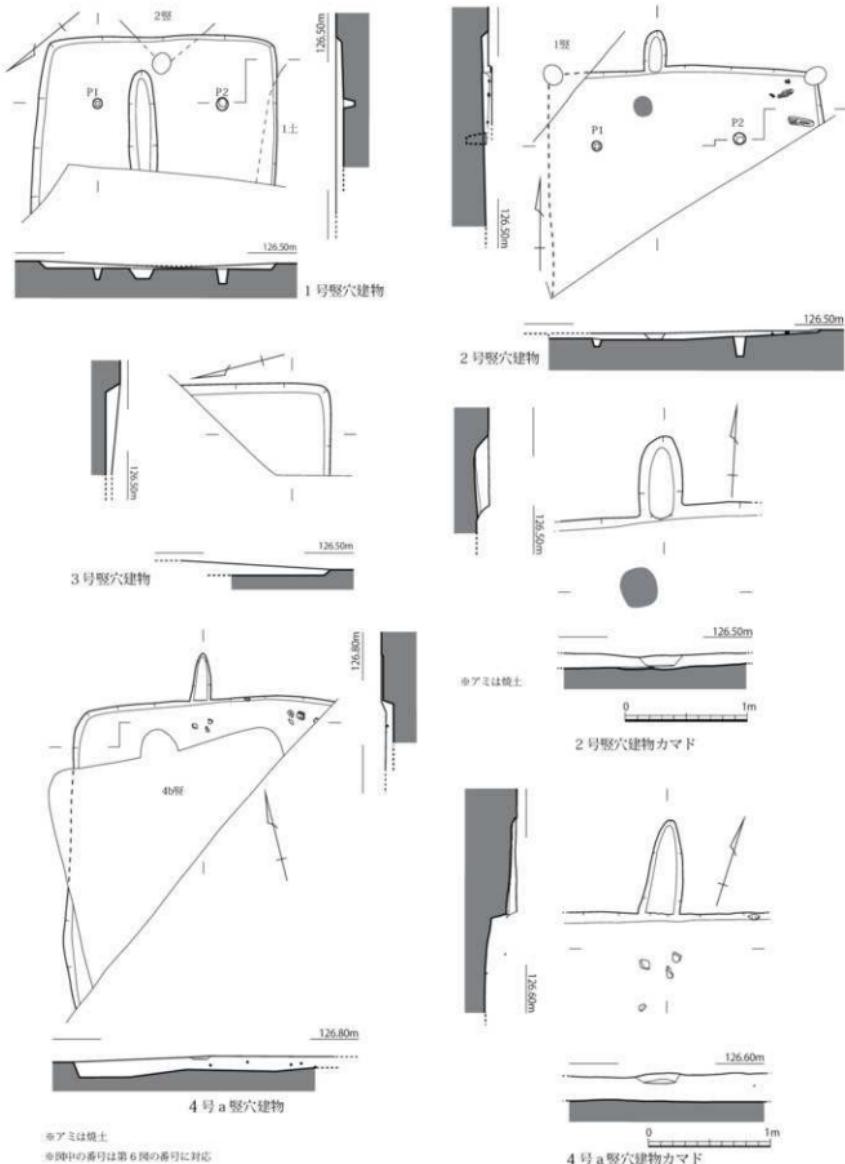
###### 2号堅穴建物 (第5図 図版2)

調査区の南側で確認され、1号堅穴建物に切られ、南側は調査区外へかかる。平面形は方形を呈する。調査区内で確認された規模は、北壁約 3.6 m、南北軸約 3.2 m、検出面からの深さは 10 ~ 15 cm を測る。床面で確認された P1・P2 が主柱穴になるとみられ、位置関係から 4 本柱になると考えられる。主柱穴の床面からの深さは P1 が約 15 cm、P2 が約 35 cm を測る。

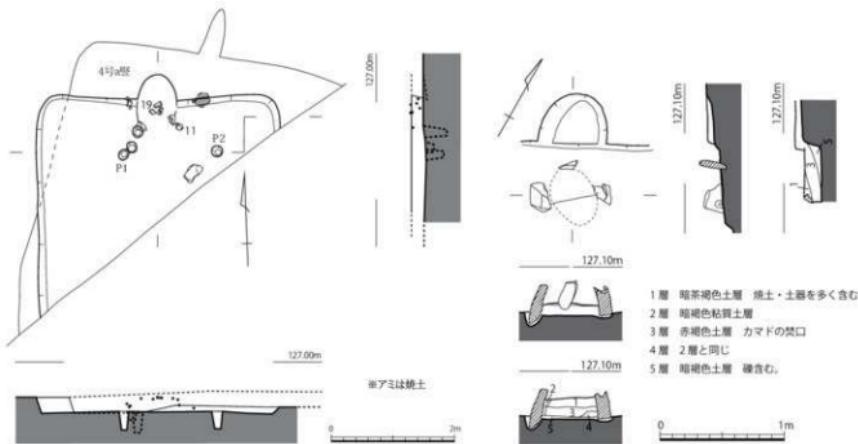
また、北壁中央よりやや西寄りで焼土が検出され、カマドと判断した。袖や石臼の抜き取り痕などは確認されなかったが、壁の外へ延びる突出部が煙道になると考えられる。カマドの詳細な規



第4図 遺構配置図 (1/200)



第5図 1～4号 a 竖穴建物実測図 (1/80・カマド 1/40)



第6図 4号b竪穴建物出土遺物実測図 (1/80・カマド 1/40)

模は不明であるが、突出部の長さは約65cmを測る。このほか、北東側より炭化した木材片が出土している。

遺物は土師器甕・塊、須恵器环蓋などが出土している（第7図2～7）。6の須恵器环蓋は口縁端部の特徴からTK 23のものと考えられ、5世紀後半頃に位置付けられる。

### 3号竪穴建物（第5図 図版2）

調査区の南側で確認され、西側は調査区外へかかる。平面形は方形を呈すると考えられる。調査区内で確認された規模は、南壁約1.4m、東壁約2.3m、検出面からの深さは約25cmを測る。床面ではピットや壁際溝等は検出されなかった。

遺物は、出土しなかった。

### 4号a竪穴建物（第5図 図版2）

調査区の中央よりやや南西側で確認され、4号b竪穴建物に切られ、南側は調査区外へかかる。平面形は方形を呈する。調査区内で確認された規模は北壁約4.1m、西壁約5m、検出面からの深さは約20～30cmを測る。床面の大部分は4号b竪穴建物に切られているためか、主柱穴などは確認できなかった。

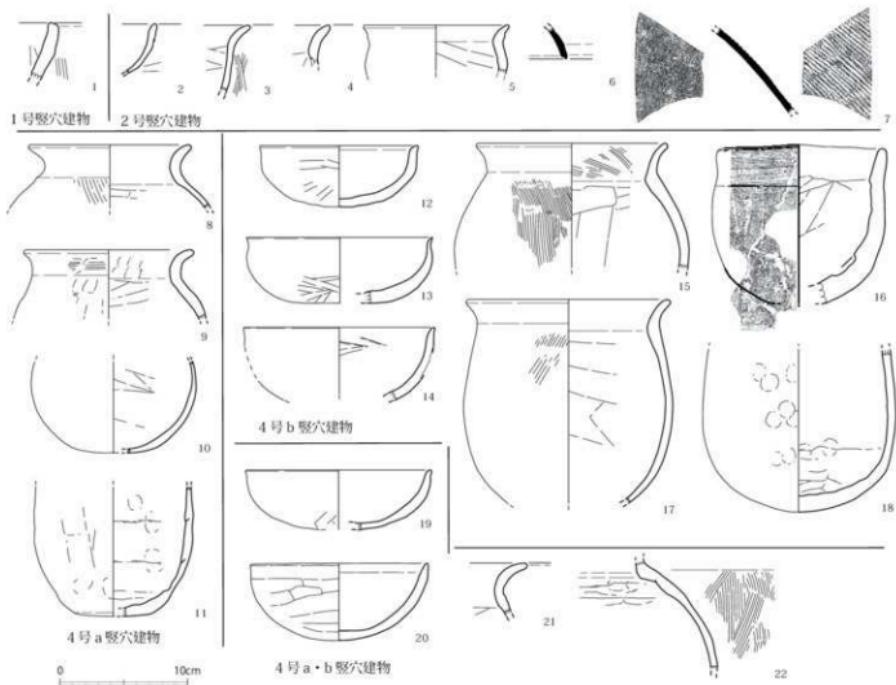
また、北壁中央付近では壁の外へ延びる突出部が確認された。この突出部については、壁の内側において、焼土などカマドの痕跡は見られないものの、2号竪穴建物と同様にカマドの突出部になる可能性もある。なお突出部の長さは約75cmを測る。

遺物は床面よりやや浮いた状態で、カマド付近と北東側で土師器甕・塊が出土している。第7図8～11はいずれもIV期のものであり、5世紀前半から中頃に位置付けることができる。

### 4号b竪穴建物（第6図 図版2）

調査区の中央よりやや南西側で確認され、4号a竪穴建物を切り、南側は調査区外へかかる。平面形は方形を呈する。調査区内で確認された規模は東西軸約3.9m、西壁約3.6mである。検出面からの深さは約10～25cmを測る。床面ではピットが数個確認されたが、そのうち、P1・P2が主柱穴となり、位置関係から4本柱になるとを考えられる。床面から深さはP1・P2とも約30cmを測る。

また、北壁中央付近にはカマドが敷設されており、半椭円形の突出部が見られる。カマドの袖は残っておらず、



第7図 1～4号a・b 竖穴建物出土遺物実測図 (1/4)

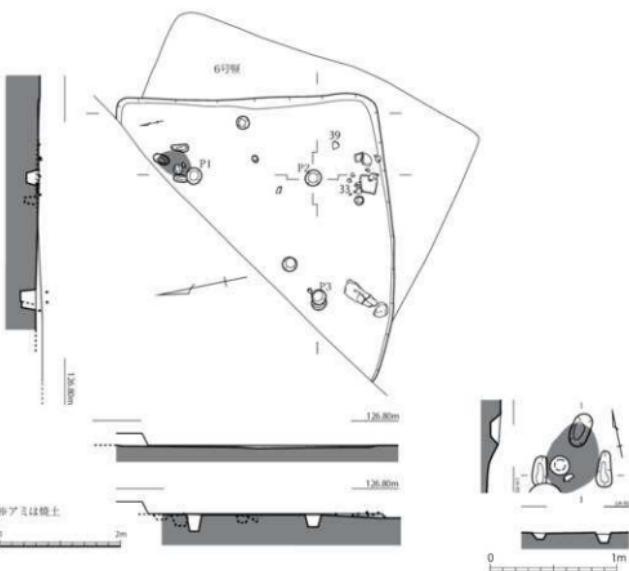
廃棄時に破壊されたと考えられるが、袖石は両側とも残存していた。また、袖の内側には石材が直立した状態で確認され、支脚になると考えられる。なお、カマド内部では、火床面は検出されなかったものの、東外側で焼土が見られたことから、破壊に伴って散乱した可能性がある。カマドの規模は両袖石の中間点から突出部先端までが約85cm、両袖石間の幅は約40cmを測る。

遺物は土師器甕・塙などが出土している(第7図12～18)。これらの土器はIV期(同図15・17)からV期(同図16)のものであり、5世紀中頃から後半に位置付けられる。

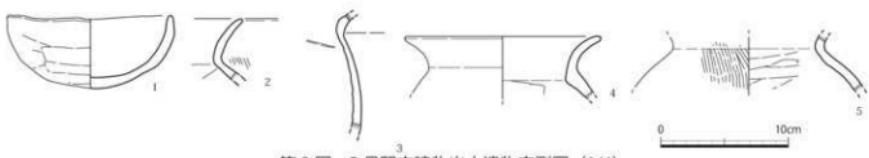
#### 5号竖穴建物(第8図 図版3)

調査区中央付近の西壁際で確認され、6号竖穴建物を切り、北側と西側は調査区外へかかる。平面形は方形を呈する。調査区内で確認された規模は南壁約4.7m、東壁約4.2m、検出面からの深さは数cmである。床面で確認された数個のピットのうち、P1・P2が主柱穴となり、位置関係から4本柱になると想われる。床面から深さは25～30cmを測る。

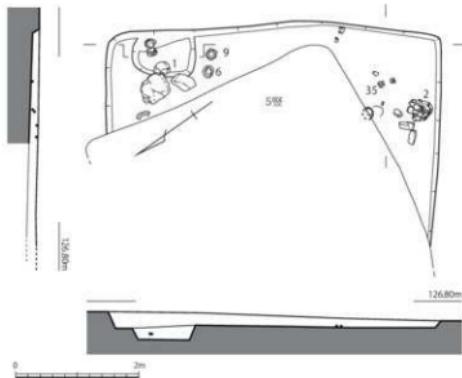
また、床の北東側では焼土が検出され、その周間にピットが3個確認された。調査時点ではカマドとは判断していないかったものの、焼土とピットの位置関係から両袖石及び支脚の抜き取り痕の可能性があり、カマドとして報告する。このカマドの規模は両袖石の抜き取り痕とみられるピット間が約50cmを測る。



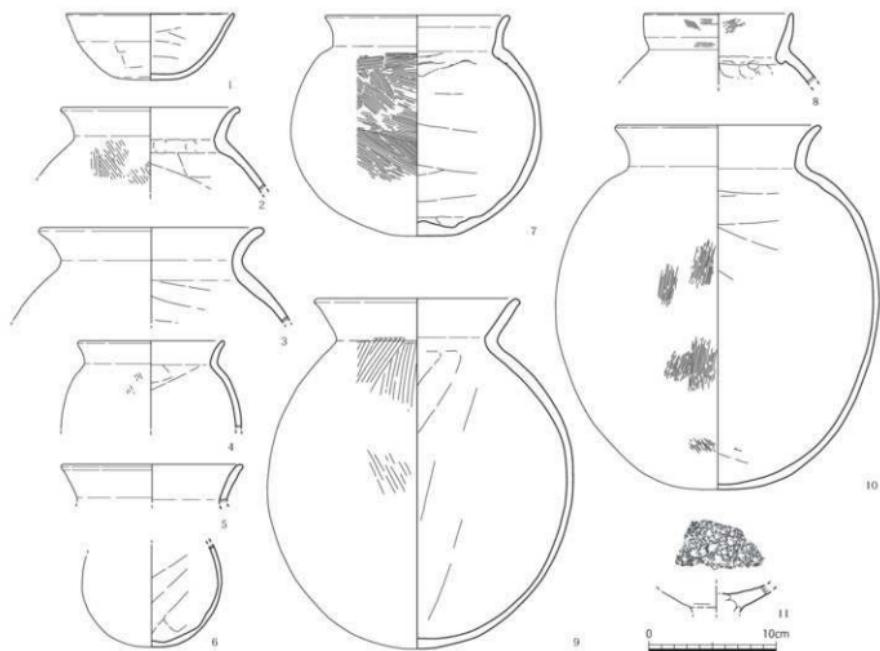
第8図 5号竪穴建物実測図 (1/80・カマド 1/40)



第9図 5号竪穴建物出土遺物実測図 (1/4)



第10図 6号竪穴建物実測図 (1/80)



第11図 6号竪穴建物出土遺物実測図 (1/4)

遺物は土師器甕・壺などが出土している(第9図)。これらのうち、2・4・5はIV期のものであり、5世紀中頃に位置付けられる。

#### 6号竪穴建物(第10図 図版3)

調査区中央付近の西壁際で確認され、5号竪穴建物に切られる。平面形は方形を呈する。規模は、東壁約5.4m、南壁約3.4m(+α)、検出面からの柱穴の深さは10~15cmを測る。

床面北東隅には屋内土坑と考えられる掘り込みが確認され、この付近から土器や石材が出土したほか、南壁際でも土器がまとめて出土している。なお、床面からの屋内土坑の深さは約25cmである。

遺物は土師器甕・壺・高杯等が出土しており(第11図)、同図9の甕はIIIb~IV、また同図2~4・7・10はIV期のものと考えられ、5世紀前半から中頃に位置付けられる。

## 2. 土坑

#### 1号土坑(第8図 図版3)

調査区南西端で確認され、1号竪穴建物に切られ、西側は調査区外へかかる。調査区内での検出状況から平面形は楕円形を呈すると考えられる。床面はほぼ平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。調査区内で確認された規模は、長軸約2.0m(+α)、短軸約1.4m(+α)、検出面からの深さは約20cmを測る。

遺物は縄文土器鉢形土器や打製石斧、縦長剥片及び管玉が出土している。

## 2号土坑（第11図 図版3）

調査区中央付近の東壁際で確認され、南東側が調査区外へかかる。調査区内での検出状況から平面形は楕円形を呈すると考えられる。床面はほぼ平坦で、壁は急角度で立ち上がる。調査区内で規模は長軸約1.3m (+a)、短軸約1.4m、検出面からの深さは30~40cmを測る。

遺物は出土しなかった。

## 3号土坑（第11図 図版3）

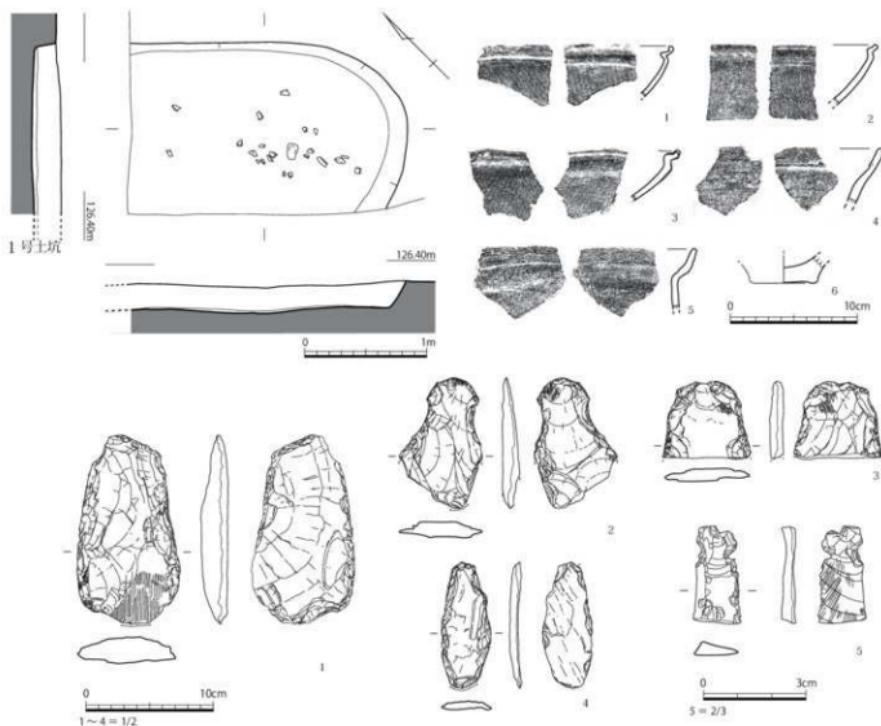
調査区の中央付近で確認された。平面形は長楕円形を呈する。床面は東に向かって若干傾斜し、壁の立ち上がりは、東側が比較的緩やかであるが、その他は急角度である。また、遺構内からは、板状の石材が多く出土しており、石蓋土坑墓であった可能性もある。規模は長軸約1.1m、短軸約0.5m、検出面からの深さは約15cmを測る。

遺物は出土しなかった。

## 3. その他の遺物（第14・15図 図版5）

ここでは、これまでに記述してきた遺構以外からの遺物について述べる。

遺構にともなわない遺物のうち、堅穴建物と同様に土師器壺・塊（第14図2・3）はⅢb期のもので、堅穴



第12図 1号土坑実測図（1/40）及び出土遺物実測図（1/4・1/2・2/3）

建物と同時期であるのに対し、須恵器坏身（同図 1）については、T K 10～M T 85 と比較的新しい時代のものもみられた。また、14世紀頃のものと思われる青磁碗なども出土している（同図 7）。

このほか、打製石斧（第 15 図 1）や土鈴（第 16 図 1）が出土している。

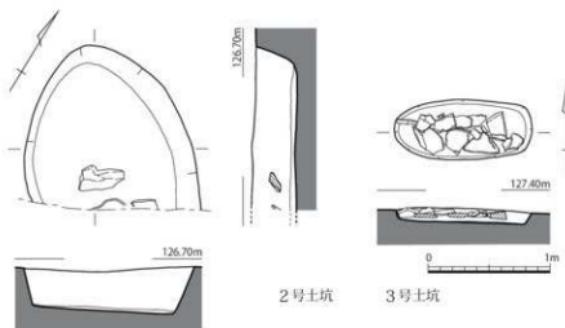
註(1) 遺物の時期の判断に当たっては、以下の報告・論文等を参考にした。

繩文土器：古森政次『ワクド石遺跡』熊本県文化財調査報告第 144 集 熊本県教育委員会 1994

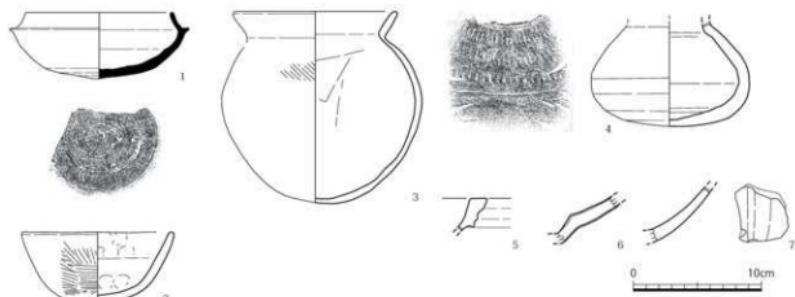
土師器：重藤輝行『北部九州における古墳時代中期の土師器編年』『古文化談叢』第 63 集 九州古文化研究会 2010

須恵器：田辺昭三『須恵器大成』角川書店 1981

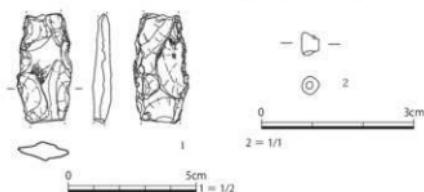
陶磁器：中世土器研究会編『概説 中世の土器・陶磁器』真陽社 1995



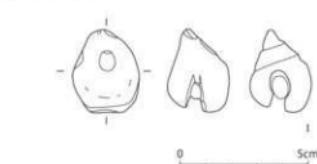
第 13 図 2・3 号土坑実測図 (1/40)



第 14 図 その他の出土遺物実測図 (1) (1/4)



第 15 図 その他の出土遺物実測図 (2) (1/2・1/1)



第 16 図 その他の出土遺物実測図 (3) (1/2)

## IV 総括

前章までに、本調査で確認された遺構・遺物について記述してきたが、ここでは主に古墳時代の集落について、求来里川流域における位置付けについて述べ、総括をしたい<sup>10)</sup>。

まず、調査で確認された竪穴建物7軒のうち、時期の判明した5軒はすべて5世紀前半から中頃の範疇に収まる。この時期は、求来里川流域において集落の様相が大きく変化する時期でもある。詳細はこれまでの報告等に記述しているが、その要因として朝鮮半島系文物の流入により、生活様式の大きな変化が起きたものと考えられる。

求来里平島遺跡では今回報告するA区で確認された竪穴建物など、中期に入り集落が営まれ始めるようになる。第1表は、求来里平島遺跡、金田遺跡、町ノ坪遺跡の建物の時期変遷を示したものである。この表から中期に入ると、求来里平島遺跡のほか、求来里川下流に位置する金田遺跡・町ノ坪遺跡でも集落規模が拡大し、流域一帯において集落の範囲が広がっていくことがわかる。その後、後期に入ると、金田遺跡では集落規模が縮小し、その中心は町ノ坪遺跡と求来里平島遺跡、さらに上流の名里遺跡へと移っていく。このことについては、これまでの報告でも述べてきたが、今回の報告で建物数や時期を検討することにより、そのことを追認することができた。

註(1) 各遺跡の調査内容等については、P4～P5の参考文献を参照されたい。

第1表 求来里川流域における古墳時代集落変遷表

西暦		300			400			西暦時代			500			600		
時代		前期	後期	初期	前期	後期	中期	後期	中期	後期	前期	後期	中期	後期	中期	後期
土器 輪生	土器器(直筒)	I期	II期	III期	IV期	V期	VI期	VII期	VIII期	X期	XI期	XII期	XIII期	XIV期	XV期	XVI期
					TG 232 231	TK 73 216	TK 208 23	TK 47	MT 15	TK 10	MT 85	TK 43 209	TK 217			
求 來 里 平 島 遺 跡	1次A															
	2															
	3															
	4															
	5															
	6															
	7															
	8															
	9															
	10															
	11															
	12															
	13															
	14															
	15															
金田遺跡 ※1～3次調査	16															
	17															
	18															
	19															
	20															
	21															
	22															
	23															
	24															
	25															
町ノ坪遺跡 ※A～C区のみ、D区は除く	26															
	27															
	28															
	29															
	30															
	31															
	32															
	33															
	34															
	35															

※表中の黒は確実な所属期間、灰色は所属時期はおよそ所属期間を示している。

※求来里平島遺跡1次B区・2～4次及び金田遺跡・町ノ坪遺跡(遺構名省略)は当該期に所属する建物の軒数・棟数の合計数を示している。







調査地周辺空中写真（南西から）



調査区垂直写真（上が南西）

写真図版 2



① 1・2号竪穴建物、1号土坑発掘状況（南西から）



② 1号竪穴建物発掘状況（北西から）



③ 1・2号竪穴建物発掘状況（上が南西）



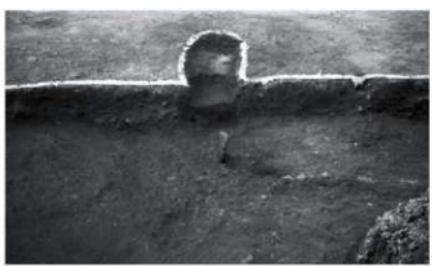
④ 3号竪穴建物発掘状況（南西から）



⑤ 4号a・b竪穴建物発掘状況（上が南西）



⑥ 4号a竪穴建物発掘状況（南から）



⑦ 4号a竪穴建物カマド発掘状況（南から）



⑧ 4号b竪穴建物カマド土層堆積状況



① 5・6号竪穴建物発掘状況 1 (南西から)



② 5・6号竪穴建物遺物出土状況 2 (北東から)



③ 6号竪穴建物遺物出土状況 1



④ 6号竪穴建物遺物出土状況 2



⑤ 1号土坑遺物出土状況



⑥ 2号土坑発掘状況 (南から)



⑦ 2号土坑完掘状況 (北から)



⑧ 3号土坑発掘状況 (北西から)

写真図版 4



7-8



7-9



7-10



7-11



7-12



7-13



7-14



7-16



7-18



7-20



9-1



11-1



11-3



11-6



11-7



11-2



11-8



11-9



11-10



12-6



14-1



14-3



14-2



14-4



12-1



12-2



15-1



15-2



16-1



12-4



12-3



12-5

## 報告書抄録

ふりがな	くくりひらしまいせき 1じ Aくのちょうさ
書名	求来里平島遺跡1次 A区の調査
副書名	県営日田地区広域農業整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
卷次	(6)
シリーズ名	日田市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第136集
編著者名	若杉竜太
編集機関	日田市教育庁文化財保護課
所在地	〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6-1 0973(24)7171
発行年月日	2019年(平成31年)3月25日

所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
求来里平島遺跡	大分県日田市 大字求来里	44204-6	204194	33°18'49"	130°58'1"	1993.05.12 ~ 1993.07.21	326m <sup>2</sup>	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
求来里平島遺跡	集落	縄文古墳	堅穴建物7軒 土坑3基	縄文土器・石器 土師器・須恵器 青磁・管玉	古墳時代中期において、集落が拡大する様相を確認

要約	求来里平島遺跡は求来里川流域に形成された沖積面に立地し、A区はその右岸に位置する。調査区付近の標高は約126~129mを測る。調査では、主に古墳時代中期前半から中頃の集落が確認された。 古墳時代中期前半から中頃は、求来里川流域では本遺跡の下流にある町ノ坪遺跡・金田遺跡で集落規模が大きくなり、流域一帯において集落の範囲が広がる時期である。
	後期になると、集落は求来里平島遺跡及び求来里川下流に位置する町ノ坪遺跡に加えて、上流にある名里遺跡でも確認されており、その範囲はより上流へと移っていく。このような集落の状況はこれまでの調査でも判明していたが、本調査により、その様相を改めて確認することができた。

# 求来里平島遺跡 1 次

- 県営日田地区広域営農団地農道整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 (6)-

## A 区の調査

2019 年 3 月 25 日

編 集　　日田市教育庁文化財保護課  
〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6-1  
発 行　　日田市教育委員会  
〒877-8601 大分県日田市田島2丁目6-1  
印 刷　　日田時報紙器印刷株式会社  
〒877-0086 大分県日田市二串町345-3



日田市